

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	20-005	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
<p>Seroprevalence and factors associated with Human Immunodeficiency virus, Human T lymphotropic virus and Hepatitis B/C infections in parturient women of Salvador - Bahia, Brazil</p> <p>ブラジル、バイーア州サルヴァドール市の出産女性におけるヒト免疫不全ウイルス、ヒト T リンパ球向性ウイルス、B/C 型肝炎ウイルスの血清有病率とその要因</p>		
執筆者		
Vargas L, Bastos F, Guimarães A, Amaral S, Fausto T, Arriaga M, Sarno M, Brites C.		
掲載誌		
Braz J Infect Dis. Jul-Aug 2020;24(4):279-287. doi: 10.1016/j.bjid.2020.05.001.		
キーワード		PMID
ウイルス感染、血清有病率、危険因子、出産女性		32464116
要 旨		
目的：		
<p>妊婦におけるヒト免疫不全ウイルス（HIV）、ヒト T リンパ球向性ウイルス（HTLV）、B 型および C 型肝炎ウイルス（HBV および HCV）感染の検出率はそれぞれ異なる。本研究ではブラジル、サルヴァドール市の産婦における HIV、HTLV、HBV、HCV の血清有病率、および関連する危険因子を評価した。</p>		
方法：		
<p>横断研究。2016 年 4 月～2017 年 6 月、サルヴァドール市の 2 つの公立産科病院で出産した 2099 人の女性を対象とした。入院時に HIV、HTLV、HBV、HCV の血清学的スクリーニング、および質問紙にて社会人口統計学的、産科的・臨床的データの収集を行った。X² 検定・t 検定（または Mann-Whitney の U 検定）およびステップワイズ多重ロジスティック回帰分析により、ウイルス感染に対する各危険因子のオッズ比（OR）および 95% 信頼区間（CI）を算出した。</p>		
結果：		
<p>HIV 血清有病率は 1.5% で、そのうち 0.6% が新規症例であった。HTLV、HBV、HCV の血清有病率は、それぞれ 0.4%、0.4%、0.1% であった。単変量解析では、社会人口統計学的要因（収入や家庭環境）、行動因子（性行動や薬物）と HIV、HTLV 感染との間に有意な関連を認め、HBV、HCV は主に非経口曝露（入れ墨・ピアスなど）との関連を認めた。死産歴および低出生体重児の出産歴は HTLV 陽性と有意に関連した。多変量解析では、複数の性的パートナー（OR: 3.3; 95% CI : 1.1–9.2）、性暴力および家庭内暴力（OR: 2.8; 95% CI : 1.1–6.9）、梅毒併存（OR: 2.6; 95% CI : 1.0–6.9）、アルコールまたは違法薬物使用（OR: 2.5; 95% CI : 1.2–5.5）、および低学歴（OR 2.3; 95% CI : 1.1–4.9）が HIV 感染の独立した危険因子であった。</p>		
結論：		
<p>産婦におけるウイルス感染の現状を調査した。感染危険因子の認識は、高リスク妊婦を対象とした予防、監視政策の立案に重要である。</p>		